学校通信

平成３０年度　第５号
平成３０年　９月　２日
練馬区立開進第三小学校
校　長　岡　部　良　美

『人の話を静かに聞く習慣』

校長　岡部　良美

７月２１日から９月２日までの夏休み。子供たちはゆったりとした時間の中で、豊かな体験をしたことでしょう。各教室には、夏休みに取り組んだ研究、調査、学習、工作などの作品が掲示されています。手作りの作品、フィールドワークの調査をまとめ上げた作品、インターネットで必要な情報を引き出しまとめた作品など、どれもすばらしいものばかりです。子供はもともと想像・創造力をもっています。子供の中にあるすばらしい可能性や能力の芽が、いろいろと芽吹いたのではないかと思います。子供の成長は環境に大きく影響を受けます。

さて､今の子供たちを見ていて､｢話を聞く｣ことについて考えることがあります。今の子供たちの環境を考えてみます｡｢テレビではいつも誰かが話している｣､｢外に出ればお知らせの放送が聞こえる｣､｢店の売り場ではテープレコーダーから宣伝の声がにぎやかに流れている｣､｢電車に乗れば車内放送が繰り返される｣、しかも、この大半は静かに聞かなければならないとう性質のものではありません。評論家が熱心に語っているテレビの前で騒いでいても、車内放送を無視して話をしていても、車内放送を気にせず外を眺めていても、特に不都合なことはないし、当然叱られることもありません。かつては、子供が小学校に入学する前に、時と場所によって静かにして話を聞かなければならないという家庭や地域社会での経験が多くありました。しかし、今の子供たちは、聞く必要性を感じない音や話の氾濫した環境、静かに話を聞く経験不足の中で生活をしています。着席して静かに話を聞くという経験は学校が初めてではないかと思われる子供たちもかなりいるのです。

子供たちは、家族の愛に囲まれて育てられ、就学前の教育を受けて入学をしてきます。体験や経験により、話を聞く態度と能力の違いが大きいと感じます。習慣化した行動様式を言葉や理屈だけで矯正することは難しいです。しかし、理屈で説明し、実際に行動させ、身に付くまで根気強く繰り返すことを訓練的に行う必要があります。これには、家庭と学校が共に同じ考えに基づいて進めることが肝要です。

報道などでは､｢講義中の私語を慎むべきことは理屈で分かっていても、注意された数分後にはもう忘れている大学生｣ 等、人の話を静かに聞く力を身に付けずに成長してきてしまった大人の姿が報告されています。

子供たちが活躍する２０３０年代は、グローバル化、情報化、技術革新が進展し、今とは大きく違った社会となっていることでしょう。日本にも多くの諸外国の人々が移り住み日本社会で生活する時代、今の子供たちの半数以上が現在存在していない職業に就く時代になっていると予想されます。しかし、その時代でも、主体的に多くの人々と向き合って関わり合うことは欠かすことができません。

自主性や個性の尊重は必要ですが、子供が嫌がることを否定的にとらえ、訓練やしつけをしてこなかったことはないでしょうか。『人の話を静かに聞く習慣』は、単に話の内容を理解するだけでなく、｢相手を大切にする・尊重する・思いやる｣ 心や態度、コミュニケーション能力の向上、安心感のある生活につながります。本校では、しっかりと子供たちに身に付けさせていきます。